

書名	47都道府県・美術の偉人百科			著者名	森岡 浩／著			
出版社	丸善出版	ISBN	978-4-621-31157-8		本体価格	¥4,400	発売	2025/8/4
内容	縄文時代から現代まで日本人は多くの美術作品を残してきた。古くは縄文時代の縄文土器に始まり、その後の大陸の影響を受けた仏教美術、そして徳川幕府の文治政策は美術の各分野に多彩な展開と繁栄をもたらした。美術の分野も絵画、彫刻、版画、陶芸、染織など多様である。美術家の出身地は東京と京都に偏るが、伝統工芸まで含めれば美術家の出身地は日本全国となる。							

書名	中世城郭の新論点			著者名	編集：高田徹			
出版社	戎光祥出版	ISBN	978-4-86403-587-3		本体価格	¥3,600	発売	2025/8/5
内容	新たな調査・研究手法が導入されるいっぽう、諸説乱立する城郭研究。 今最も熱い20のテーマから、中世城郭の本質に迫る！ 現状の課題、今後の論点を抽出し、研究の進展を図る便利な手引き書。							

書名	畿内近国の城郭と縄張技術			著者名	金松 誠／著		
出版社	戎光祥出版	ISBN	978-4-86403-585-9		本体価格	¥9,000	発売 2025/8/5
内容	大和国を中心に、文献史料に基づき中世から近世初頭における城郭の成立と展開、収斂していく過程を一国レベルで具体的に検討。また、畿内近国の陣城や臨時的城郭を中心に戦国期城郭と織豊系城郭の併存・移行期における縄張技術のあり方とその年代観を探り、戦国期城郭と織豊系城郭のあり方について追究する。						

書名	石塔寺と石造三重塔			著者名	大塚 活美／著			
出版社	サンライズ出版	ISBN	978-4-88325-851-2		本体価格	¥1,800	発売	2025/8/5
内容	滋賀県東近江市にある石塔寺の石造三重塔(重要文化財)は、その形が韓国の三層石塔に似ることから、百済からの渡来人の子孫によって奈良時代に建立されたとする説が長く有力視されてきた。本書は、これまでの研究史を振り返るとともに、縁起にも現れる宋に渡った僧寂照の記録と当時の社会状況を検討、平安時代中期における建立の経緯を考察する。あわせて、国内各地に残る模倣塔、昭和初期に行われた塔周辺の石仏・石塔の整理についても紹介。							

書名	オモロー授業発表会			著者名	編集: 坊 佳紀、熊谷雅之			
出版社	学事出版	ISBN	978-4-7619-3080-6		本体価格	¥1,600	発売	2025/8/6
内容	2023年4月に「市民の力で日本の教育を楽しく変えよう」とする実践発表＆対話型イベント「オモロー授業発表会」第1回が大阪で開催されました。次々と思いに共感する人たちが増え、北海道から沖縄まで、全国35市町村ですでに70回を超えて開催され、いま、大きなムーブメントとなっています。 本書は、そのガイドブックとも言える1冊です。							

書名	いにしへの空もよう 平家物語			著者名	福島 櫻／著			
出版社	ぶんしん出版	ISBN	978-4-89390-227-6		本体価格	¥1,600	発売	2025/8/8
内容	本書では、『平家物語』から印象的な空模様の描写を抜粋し、その一つひとつを筆者自身の視点で味わい直しています。「星霜」「薄氷」「雷鳴」「霜」——それらの自然現象に込められた意味を読み解くことで、『平家物語』の世界がより深く、より感覚的に迫ってきます。 理屈抜きで空もようを楽しみながら、自分だけのお気に入りの一節に出会ってみませんか。							

書名	映える古語探し辞典			著者名	編集：三省堂編修所			
出版社	三省堂	ISBN	978-4-385-13979-1		本体価格	¥800	発売	2025/8/16
内容	日本語の奥深さを感じたいすべての人に！ 月、星、雨、色、音、季節、花……いにしえの人々はどのように表現したのか。 情景を描く際に用いられた古語、約1700語を「天」「地」「色・音」「時」「植物」「動物」の六つのカテゴリーに分類して収録。 情感の豊かな古語と出会い、味わう辞典！							

書名	生と死の物語			著者名	大角 修／著			
出版社	大法輪閣	ISBN	978-4-8046-1457-1		本体価格	¥2,400	発売	2025/8/18
内容	死後の靈魂や来世が現実にあるのかどうか、それはわからない。しかし、死後の世界の物語は強く人の心をひきつける。近年の漫画やアニメでも、死霊や妖怪などの冥界・異界ものに人気がある。そのなかで、あの世の話は極楽より地獄のほうがおもしろいともいわれるのだが、古典文学では地獄よりも極楽浄土への思いが強い。来世に救いを求めるなら当然である。本書で取り上げた『万葉集』から近現代の作品にも、そうした思いがこめられている。							